



最新の超音波機器を配備

当センターは2016年設立され、センター専属の専門技師及び臨床検査部所属の検査技師、各領域の専門医師が協力しながら、検査を行っています。当センターは最新の超音波機器を常設し、最先端の技術及び検査法を導入し、医学の進歩を速やかに患者様に還元できる体制を整えております。2021年4月より当センターは白と水色の色調で統一された新しい検査室に生まれ変わりました。患者様のプライバシーを保ち、安心して検査を受けて頂ける9つの検査室、レポートを作成するスペースを中央に集約し、各スタッフ間で円滑なコミュニケーションをとっています。超音波検査は全ての領域のゲートキーパーの役割を担っていると言っても過言ではなく、その為にも鮮明な画像描出が大変重要です。各スタッフの日々の研鑽及び指導者によるダブルチェックにより、迅速かつ正確なレポートが作成されています。また、大きなスクリーンに画像を供覧し、毎週定期的なカンファレンスを行い、検査の技術向上のみならず、知識向上にも努めています。



超音波の学術的活動・研究内容

当センターでは専門領域毎に最先端の超音波機器を利用した臨床研究を行い、学会活動に積極的に参加しています。2023年度、当センター所属の検査技師が日本超音波検査学会において若手研究奨励賞にて優秀賞を獲得致しました。また、当センター主催のweb講習会を定期的で開催し、埼玉を中心とした関東圏の医師、検査技師が多く参加し、近隣の超音波検査のレベル向上に大きく貢献しております。

研究内容

- 4次元心エコー解析による術前弁膜症、右室機能解析
- 心エコー検査による心アミロイドーシス検出
- 左室長軸方向のストレインにおける apical sparing 判定基準の検討
- Global longitudinal strain の癌治療関連心機能障害検出精度の検討
- AIによる心電図及び心エコーを組み合わせた心疾患診断（共同研究）
- C型肝炎ウイルス排除後発癌予測における肝硬度と aMAP スコアの有用性に関する研究
- 新規超音波技術を用いた NASH pentagon の作成と臨床的有用性の研究
- 発癌モデルマウスにおける腹部超音波の腫瘍描出能の研究

